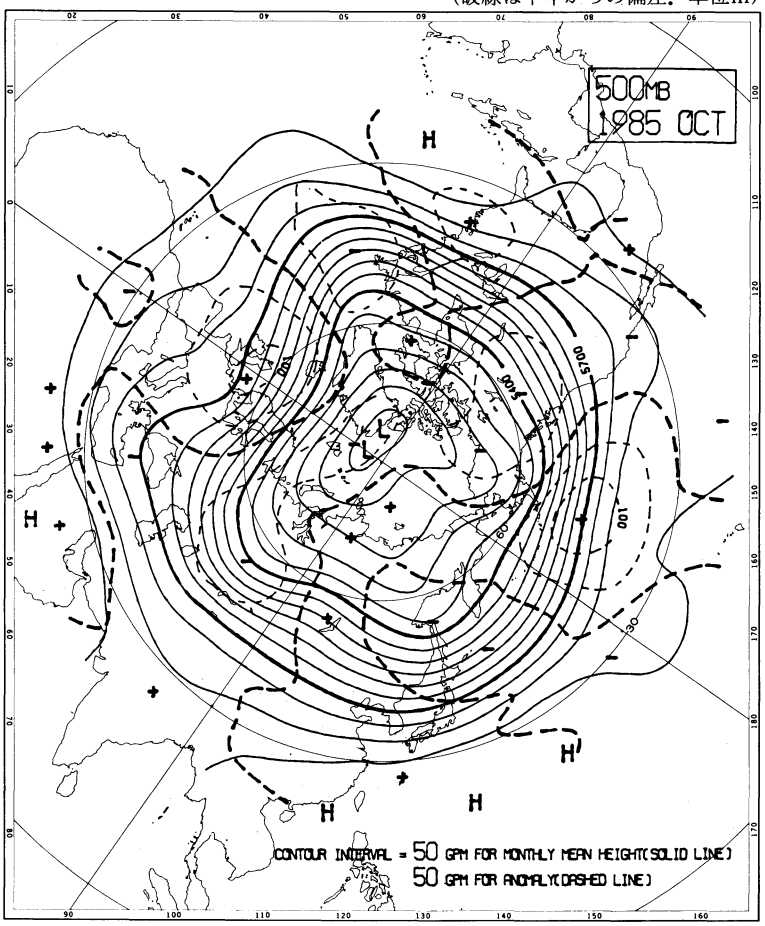
NEWS

月平均500mb 天気図．1985年10月

（破線は平年からの偏差．単位m）



9月と同じようなパターンが続く

西ヨーロッパ（東経0度付近）を中心とする気圧の尾根が先月に続いて強く，グリーンランドの南とウラル山脈付近の気圧の谷も持続した．また，北太平洋北東部の正偏差，アラスカからロッキー山脈にかけての負偏差，アメリカ東部の正偏差というパターンも先月とほぼ同じである．

このような大気の偏差パターンに対応して，海面水温の偏差分布（資料は気象庁海洋課作成）も，北大西洋・北太平洋ともに，北西部で強い負偏差，北東部で強い正偏差というパターンになっており，そのような海面水温パターンが9月・10月と持続した．高気圧に覆われた所で海面水温が高く，低気圧の下で海面水温が低くなっているが，逆に，気圧パターンの維持に海面水温が何らかの役割を果たしていることも考えられる．

極東域を見ると，先月に引き続いて，日本南方の亜熱帯高気圧が強く，日本南部から中国大陸南部にかけて広く正偏差に覆われた．西日本では気温は平年に比べてやや高かった．一方，北日本では，月前半は気圧の尾根に入っていたが，後半には寒冷うずが南下してきたために，一時的な冬型となり，月平均気温は平年並であった．西太平洋域の対流活動は，月前半は活発であったが，後半には急速に弱まり，ITCZは赤道付近まで後退してしまった．これとほぼ同時に北日本への寒気流入が始まったことは，熱帯と中緯度の関連を示唆しており興味深い．

（長期予報課　山田真吾）